

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

学校名(藤城小)

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定					自己評価		学校関係者評価					
<ul style="list-style-type: none"> 各項目にわらいを定めた取組の計画・実施 取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定 					<ul style="list-style-type: none"> アンケート実施結果、その他指標の結果について整理 		評価日 平成28年2月8日	評価日 平成28年2月19日				
					評価者・組織 学校評価委員会		評価者(いずれかに○) 学校運営協議会 学校評議員					
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策				
1	確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> わかる授業の創造 情報活用能力の育成 読書活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科での言語活動のさらなる充実 各教科におけるICT活用情報モジュールに関わる授業の取組 100冊読書の定着朝読書の確実な実施 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の話す・聞く態度の変容・ジョイントプログラムの結果 コンピュータやデジカメなどを使うことができずか 読書タイム以外で読書していますか。家の人といっしょに本を読んだり、図書館に行ったりしますか。 	<ul style="list-style-type: none"> 勉強がよくわかると回答した児童が3%増え、93%であった。 全児童の84%ができる 読書タイム以外では65%となり、図書館へは37%と低くなっている。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ジョイントプログラムはどの学年も前回の数値を上回る結果であった。 算数科の授業においてICT機器を効果的に授業に取り入れたことにより、学習に対する意欲を高めることができた。 読書タイム以外で読書できていると意識している児童が前期より1%減少した。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の課題を明確にし、すべての児童の学力定着を図る。 学年で教材研究に取り組み、公開授業を実施することで指導者の授業力を向上させる。 前期に引き続き、「自学自習」を懇談会等で啓発していく。 懇談会やお便りで家庭での読書習慣の定着を啓発する。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用して学習している。 字を丁寧に書く習慣が定着していない児童も見られる。 本の冊数も大切も必要かもしれないが、1冊の本を丁寧に読み切ることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーのさらなる充実を図り、学びを豊かにする学校教育と地域人材の連携を図る。 家庭での学びや読書習慣の定着を目指した親子で取り組めるような計画していく。
2	豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな心の充実 挨拶や望ましい言葉づかいの徹底 豊かな体験活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画による人権教育の授業実践 児童会を中心とした発信と地域ぐるみの取組 自然体験活動・社会体験活動の取組全校合唱 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを考え、行動していますか。自分には良い所がありませんか。 子どもは望ましい言葉づかいができていますか 藤城夏祭りや学区民運動会、オータムフェスタなど児童スタッフとして参加 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを考え、行動していると回答した児童は97%であった。自分の良い所は90%が自覚している。 児童は89%できていると意識しているが、保護者からは68%と低い。 高学年児童が児童スタッフとして地域行事に参加した。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶ができていると意識している児童は前期より4%高くなった。しかし、保護者・地域の評価はどちらとも70%に届いていない。 オータムフェスタ・もちつき大会で高学年が児童スタッフ、防災訓練に児童スタッフとして意欲的に活動した。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 児童会を中心に「あいさつ運動」に取り組み、自分から進んで挨拶ができるようにするとともに、能動的な挨拶ができるように教職員からも積極的に声かけをしていく。 より多くの児童が地域スタッフとして地域行事に参加するように声かけをしていく。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に比べ、「挨拶する」という意識が薄れてきた児童も見られる。 場に応じた言葉づかいができていない児童もいるが、高学年になるにしたがって、しっかりと使えるようになる児童が多い。 地域行事の児童スタッフとして意欲的に取り組んでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶は大人からも積極的に声かけをし、子ども達と顔見知りになっていくようにする。 保護者にも挨拶の大切さを啓発していく。 たくましく生き抜く力の育成を視野に入れ、地域行事を企画し、できるだけ多くの児童にスタッフとして参加してもらうようにする。
3	健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 体力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ バランスのとれた食事 	<ul style="list-style-type: none"> 早寝・早起き・朝ごはんなど規則正しい生活はできていますか 好き嫌いをせずにバランスよく食べていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> 高学年になるにつれ、就寝時間が遅くなる傾向がある。 6年以外は90%ができていて、6年は90%を下回っている。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 前期と同様10時までに就寝する児童は74%であった。5・6年の10時までの就寝時間は、60%に達していない。 歯科治療に対して、担任・保健室から未治療児童に治療を進める必要がある。 バランスよく食べている子ども90%を超えているが、給食指導においてさらに声をかけていく必要がある。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の定着を目指し、保健室だよりだけでなく、学級通信等でも積極的に啓発する。 虫歯の治療率を高めていくために、積極的に啓発をする。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 家庭で早寝・早起きや偏食をなくす習慣をつけることが大切である。 家の中でゲームをするのではなく、屋外で活動することが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 良い生活習慣を継続させるための手立てを考え、地域として保護者に啓発する取組を計画する。
4	独自の取組	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育の推進 情報発信の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 藤中読み聞かせ会の実施 藤中オープンスクールの実施 積極的なホームページの更新 	<ul style="list-style-type: none"> 低学年児童の感想文 中学校の授業体験・給食試食の様子とクラブ見学 学級・学校だより、ホームページなどで学校の様子がわかりますか 	<ul style="list-style-type: none"> 藤中オープンスクールで、6年生が中学校の授業を体験し、意欲的に取り組んだ。 中学生による読み聞かせに低学年児童がしっかりと耳を傾けていた。中間休みは運動場で楽しく交流した。 保護者の方には91%以上、地域の方は95%以上わかるという回答であった。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 中学校での授業体験は進学への期待や楽しみを感じ取らせるものにつながった。また、部活見学ではいろいろな部活動が見学できた。 ホームページは、前期同様タイムリーな子ども達の様子を掲載し、学校の様子を紹介することができた。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 藤森中学と話し合い、本年度の取組を精査し、より効果的な小中連携の計画を立案する。 ホームページは、各学年からタイムリーな内容を発信し、保護者・地域からアクセスしていただけるようにする。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事での児童スタッフ経験者がたくさん藤森中学校に進学しているが、子ども達の様子がなかなか見えない。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校や卒業生とも連携を図るような取組を考えていきたい。 地域行事に参加できるように中学生にも声かけをし、卒業生の成長にも目を向けていく。

4 総括・次年度の課題

- 算数科において問題解決学習の学びに焦点をあて、タブレット端末などICT機器を効果的に活用し、確かな学力の定着を図る。
- 地域の方々と協力しながら様々な取り組みや声かけを通して能動的な挨拶ができる児童の育成を目指す。
- 地域行事において、より多くの児童がスタッフとして参加するように声かけをしていく。
- 高学年児童は、朝マラソンに取り組み、健やかな体の成長を目指す。
- 藤中ブロック5校で本年度の取組を振り返り、より有効となる小中連携の取組を実施する。